

筑波サーキット GO! カートフェス



12月9日、筑波サーキットGO!カートフェスが開催され、市内外から訪れたたくさんの来場者で賑わいました。

筑波サーキット(村岡)を会場にしたGO!カートフェスでは、ゴーカート走行体験や普段見ることができないコントロールタワーの見学などが行われました。ゴーカート走行体験では、走行会や大会でも使用されるコース1000を走行し、楽しそうに運転する子どもたちや親子で2人乗りのゴーカートに乗る姿などが見られました。その他にも、セーフティーカートの乗車などGO!カートフェスならではの体験が盛りだくさんのイベントとなりました。

名前の由来は？

下妻市内にある筑波サーキットですが、名前は「筑波」サーキットです。下妻市にあるのにどうして「筑波」？不思議に思った方も多いのではないのでしょうか。

「筑波サーキット」という名称になったのは、近くにあるランドマークといえば筑波山で、覚えてもらいやすく、筑波サーキットから筑波山が綺麗に見えることから名付けられたそうです。(諸説あり)



TOPICS ~しもつまニュース~

令和6年下妻市新春の集い

1月17日、千代川公民館において、下妻市、下妻市商工会、常総ひかり農業協同組合の共催により令和6年下妻市新春の集いが開催され、地元選出の国会議員、県議会議員、市議会議員、各種団体や市関連企業の代表者など182人が参加し、新年のあいさつを交わしながら、市の発展を誓い合いました。

主催者を代表して菊池市長が「新型コロナウイルス感染症が5類へ移行しましたが、コロナ禍がきっかけで人々の生活スタイルが一変、市民ニーズも多様化している。こうしたニーズを的確に把握しスピード感をもって応えていく決意」と力強くあいさつしました。

また、会場ではお楽しみ抽選会やアトラクションが行われ、茨城県城里町出身の大道芸人ちゃむらいのバランス芸に、会場からは盛大な拍手が贈られました。



防災への意識 新たに 令和6年下妻市消防出初式を開催

令和6年下妻市消防出初式が1月7日、下妻市役所西側駐車場で行われ、下妻消防署員、下妻消防団員、女性消防団員など関係者418人が参加しました。

一日点検官として、大形小学校4年生の齊藤貴大さんと菅沼楓さんを任命し、服装点検、機械機具点検、車両観閲が行われ、参加者は緊張した面持ちで出初式に臨んでいました。

寺田光浩下妻市消防団長は「様々な災害を想定した訓練や日ごろからの点検などを遂行し、気を緩めず団員366名全員が力を合わせ、下妻市民を各種災害から守るための活動に邁進したい」と意気込みを語りました。



令和5年の取り組みや活動を一部紹介!

消防団詰所を建て替え



12月15日、老朽化に伴う建て替え工事が完了した下妻市消防団第4分団第3部(上妻地区)の消防団詰所の引渡式を行いました。

新しい消防団詰所は、鉄骨造2階建て・延べ床面積65㎡です。引渡式には地元消防団員をはじめ、自治区長、土地の提供者、下妻消防署員など関係者が参加。菊池市長から鍵を渡された安達政男第4分団長は「新たな地域防災の拠点が更新され、気持ちを新たに、消防団活動に邁進してまいります」と力強く語りました。

高規格救急車が配備



茨城西南広域消防本部下妻消防署千代川分署の高規格救急車が更新され、12月22日に納車式が行われました。

この高規格救急車は、LED式警告灯や補助赤色蛍光灯などにより安全性を高めたり、事故防止や事故被害を低減する装置が装備されています。車両内部も高度救命処置用資機材が搭載されており、人工呼吸器やベッドサイドモニター、除細動器などの最新の機材や、前席と後席を分ける隔壁扉、半永久的に殺菌や防臭などを持続する光触媒アークフラッシュにより感染症対策に有効な機能も備えています。